

II 調査研究

1 授業におけるタブレット活用研究

1 事業目的

平成31年度(2019年度)各校40台導入のタブレット端末が、全小中学校の授業で有効な利活用がなされるよう研究を進めるとともに、学校を支援する。

2 平成31年度実施内容

- (1) タブレット端末導入に関する教員の意識の変化や授業形態の変化、教員から見た児童生徒の変化等を調査する。
- (2) ICTマイスター教員を任命し、センター指導主事とともに学校に導入された機器を使用したアウトリーチ型研修を実施・展開していくなかで、質問紙調査等を通して、プログラミング教育の導入や有効なタブレット端末の利活用促進等を研究する。
- (3) 先進校への視察及び、大学の教授によるICT機器の活用についての研修を行うことで、タブレット端末活用に対する研究を進める。

3 成果と課題・改善策

(1) 成果

- ・ 国が示す「GIGAスクール構想」実現に向けて、管理職対象の研修を実施した。また、タブレット端末導入に合わせて各校で研修を行い、教員の意識の変化や授業形態の変化を促すことができた。
- ・ アウトリーチ型研修を行うことで学校の要望にも応える研修ができた。また教員の負担軽減も図れた。また、アウトリーチ型研修を体験型研修として実施したことから、教員のICT機器に対する不安を和らげることができた。
- ・ 先進的に取り組まれている大阪府の小・中学校へ視察に出向き、タブレット端末活用に対する研究について学ぶ機会を得た。

(2) 課題・改善策

- ・ 研修後のICT活用状況について、訪問等により活用が不十分な学校については、状況に応じた支援により活用を促進する。
- ・ 全小・中学校において、有効なタブレット端末の利活用促進や、教員のスキルアップに向けたアウトリーチ型研修の充実を図る。また、市内の小・中学校において、タブレット端末を活用した授業実践を積極的に公開、検証できる環境づくりに努める。

2 不登校における実態調査

1 事業目的

社会・家庭の変化等により、本市における不登校は増加している。本センターには教育支援センター「やまびこ」を有し、不登校の子どもたちへの対応について調査研究を進めているところである。それらをまとめ、学校等の対応について活用するために、本事業を進めていく。

2 平成31年度実施内容

- (1) 毎日記入している生活点検カードを活用するとともに、保護者および児童生徒に対する面談による調査を行い、家庭・児童生徒の意識の変化を調べる。
- (2) 児童生徒の生育歴等の聞き取りを行い、不登校に至った経緯を調査する。
- (3) 教育支援センター「やまびこ」における個別学習やグループ学習、多様な体験学習等をとおして、学習への意欲を高める方法について研究する。

3 成果と課題・改善策

- (1) 毎日記入している生活点検カードから児童生徒の心理的状态の変化を感じ、生徒理解に活かすことができた。
- (2) 入館希望の保護者、児童生徒が見学に来た際、これまでの経緯を聞くことで、不登校になったきっかけを把握し、指導に活かすことができた。
- (3) グループ学習、一斉学習をとおして、学習への意欲を高める方法について研究を進めた。
- (4) 不登校へのきっかけをまとめ、あらたな不登校を生まない取り組みの手立てを継続して研究する。
- (5) 学校復帰から社会的自立を目指すため、カリキュラムや生徒への関わり方について研究する。
- (6) 旧稲野幼稚園舎への移転に伴い、園舎を有効活用したカリキュラム、体験活動を検討する。